

経済・金融 フラッシュ 最近の人民元と今後の展開 (2015年7月号)

経済研究部 上席研究員 三尾 幸吉郎

TEL:03-3512-1834 E-mail: mio@nli-research.co.jp

- 6月の人民元相場（対米国ドル）は基準値・現物実勢ともにほぼ横ばいで推移した。米国では利上げ観測、中国では利下げ観測と、米中金利差拡大で元安・ドル高となり易い地合いだったものの、中国人民銀行が基準値を高め設定したため横ばいに留まったと見られる。
- 当面の人民元（現物実勢）は引き続きボックス圏での推移を予想している（取引レンジは1米国ドル=6.12~6.27元）。米国では利上げが視野に入る一方、中国では利下げ局面が続いていることから引き続き人民元は売られ易いが、中国人民銀行が基準値の高め設定を続けると見られることから、弱含みではあっても急落しない相場展開が続くだろうと見ている。

[6月の動き]

6月の人民元相場（対米国ドル）は基準値・現物実勢ともにほぼ横ばいで推移した。基準値は当月安値が2日に付けた1米国ドル=6.1225元、当月高値が19日に付けた同6.1104元と小幅な変動幅に納まり、6月末は前月末比0.1%元高・ドル安の同6.1136元で終えた。一方、現物実勢（スポット・ワフア、中国外貨取引センター）は、3日に付けた1米国ドル=6.1980元が当月高値となり、その後は6.20元台で小刻みに変動、17日には当月安値となる同6.2097元を付け、6月末は前月末比やや元安・ドル高の同6.2012元で取引を終えた（図表-1）。

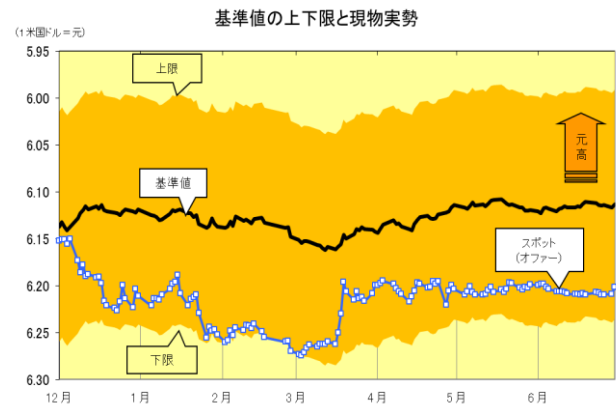
米国では年内の利上げ観測がくすぶる一方、景気に勢いが無い中国では利下げ観測がくすぶっていたことから、元安・ドル高となり易い地合いだったものの、中国人民銀行が基準値を高め設定したため、下値余地（許容変動幅の下限）が限られ、横ばいで推移したものと見られる（図表-2）。

(図表-1) 人民元（対米国ドル）の価格推移

	基準値		現物実勢	
		前日比 (注)	オファー	ビッド (注)
5月末	6.1196	-	6.1986	6.1980
6月1日	6.1207	0.0011	6.1997	6.1992
6月2日	6.1225	0.0018 (当月安値)	6.1983	6.1980
6月3日	6.1176	▲0.0049	6.1980	6.1976 (当月高値)
6月4日	6.1164	▲0.0012	6.2013	6.2008
6月5日	6.1181	▲0.0017	6.2034	6.2026
6月8日	6.1205	0.0024	6.2064	6.2055
6月9日	6.1179	▲0.0026	6.2062	6.2057
6月10日	6.1173	▲0.0006	6.2062	6.2057
6月11日	6.1150	▲0.0023	6.2067	6.2065
6月12日	6.1167	0.0017	6.2085	6.2081
6月15日	6.1169	0.0002	6.2092	6.2088
6月16日	6.1155	▲0.0014	6.2086	6.2085
6月17日	6.1158	0.0003	6.2097	6.2094 (当月安値)
6月18日	6.1126	▲0.0032	6.2081	6.2075
6月19日	6.1104	▲0.0022 (当月高値)	6.2095	6.2092
6月23日	6.1119	0.0015	6.2070	6.2066
6月24日	6.1142	0.0023	6.2074	6.2071
6月25日	6.1148	0.0006	6.2095	6.2094
6月26日	6.1137	▲0.0011	6.2093	6.2090
6月29日	6.1168	0.0031	6.2090	6.2085
6月30日	6.1136	▲0.0032	6.2012	6.2007

(資料) CEIC (中国外貨取引センター)

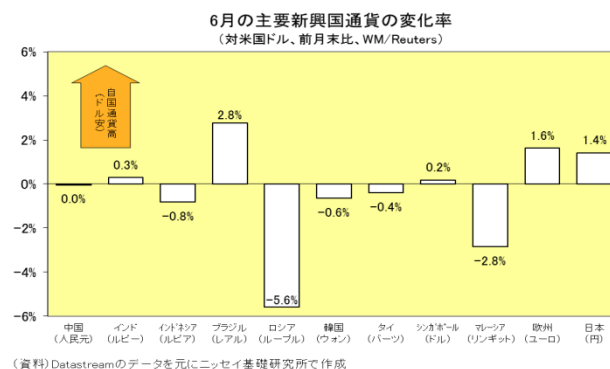
(図表-2)



(資料) CEIC (中国外貨取引センター) のデータを元にニッセイ基礎研究所で作成

一方、世界の通貨の動きを見ると6月はまたまの動きとなった。主要通貨では欧州ユーロが米国ドルに対して前月末比 1.6%上昇、日本円が同 1.4%上昇と米国ドルがやや安くなった。新興国通貨でも、ブラジル（リアル）が前月末比 2.8%上昇するなど堅調な通貨があった一方、原油価格がやや下落する中でロシア（ルーブル）が同 5.6%下落、マレーシア（リンギット）も同 2.8%下落と米国ドルに対して下落した通貨も少なくなかった（図表-3）。

(図表-3)



なお、5月下旬には、1994年に二重相場制¹から管理変動相場制へ移行してから初めて、対日本円で100円=5元(1元=20円)の大台を突破したが、6月はそれを挟んで一進一退の展開となった。

[今後の展開]

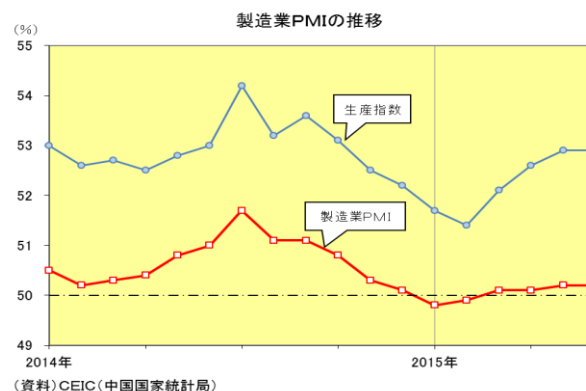
さて、当面の人民元（現物実勢）は引き続きボックス圏での推移を予想している（取引レンジは1米国ドル=6.12~6.27元、図表-4）。米国では利上げが視野に入る一方、中国では6月28日に2ヵ月連続（前回は5月11日）で利下げするなど金融緩和が続いていることから、引き続き人民元は売られ易い。しかし、9月に習近平国家主席の訪米を控える中で、中国人民銀行は基準値の高め設定を続けると見られることから、弱含みではあっても急落しない相場展開が続くだろう。

米国で仮に予想以上の景気指標ができれば、利上げ時期が前倒しになるとの思惑から米国ドルが上昇し人民元は下値を試すことになると見られるが、今年3月に付けた直近安値(1米国ドル=6.2747元)に近づけばドル売り元買い介入への警戒感が高まるだろう。一方、中国で景気指標が予想以上に改善すれば、利下げ局面は終わったとの見方が広まって人民元は上値を試す可能性もあるが、7月1日に公表された製造業PMIが横ばいだったことから6月の景気指標が大幅改善する可能性は低く、昨年10月に付けた直近高値(同6.1112元)を突破する力はないと思われる（図表-5）。

(図表-4)



(図表-5)



1 「二重相場制」では「公定レート」と「市場レート(又は調整レート)」の2つの為替レートが並立していた

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。